カタクラ

2016年12月期　決算説明会

片倉工業株式会社

（コード：3001　東証第1部）

2017年2月23日

目次

1．2016年12月期　決算概要

連結損益計算書

連結損益計算書／セグメント別売上高実績

連結損益計算書／セグメント別営業利益実績

連結貸借対照表

連結キャッシュフロー計算書

設備投資額・減価償却費・研究開発費

2．2017年12月期　通期業績予想

連結損益計算書／通期予想

連結損益計算書／セグメント別売上高予想

連結損益計算書／セグメント別営業利益予想

設備投資額・減価償却費・研究開発費予想

3．株主還元について

1. 2016年12月期　決算概要

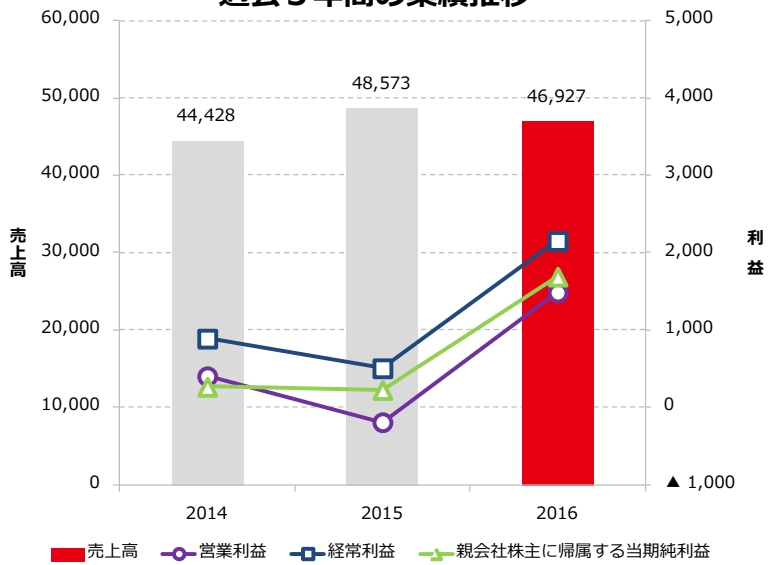
連結損益計算書

機械関連で前期大容量水中ポンプ車の売上があり減収も、2015年開業ＳＣの通年寄与や医薬品の改善もあり増益

（金額単位：百万円）

	2016実績		2015実績		前期増減	2016予想		予想との差異
	A	売上比	B	売上比	A-B	C	売上比	A-C
売上高	**46,927**	100.0%	48,573	100.0%	▲ 1,646	47,800	100.0%	▲ 873
営業利益	**1,486**	3.2%	▲ 190	▲ 0.4%	1,676	1,400	2.9%	86
経常利益	**2,152**	4.6%	507	1.0%	1,645	1,900	4.0%	252
親会社株主に帰属する当期純利益	**1,691**	3.6%	226	0.5%	1,465	1,700	3.6%	▲ 9

過去３年間の業績推移



【売上高】
・機械関連　▲３２億円
・不動産　＋１２億円

【営業利益】
・不動産　＋１０億円
・医薬品　＋７億円

【売上高】
・医薬品　▲７億円

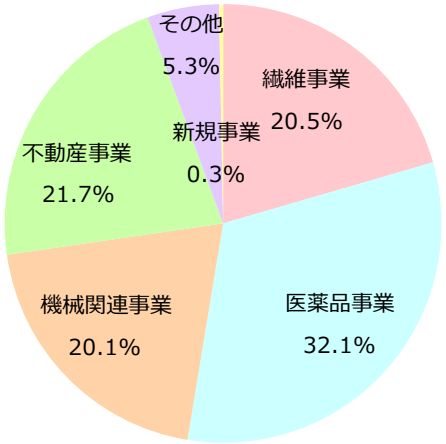
【営業利益】
・不動産　＋２億円
・繊維　▲２億円

連結損益計算書／セグメント別売上高実績

（金額単位：百万円）

	2016実績		2015実績		前期増減	2016予想		予想との差異
	A	構成比	B	構成比	A-B	C	構成比	A-C
売上高	**46,927**	100.0%	48,573	100.0%	▲ 1,646	47,800	100.0%	▲ 873
繊維事業	**9,635**	20.5%	9,652	19.9%	▲ 17	9,700	20.3%	▲ 65
医薬品事業	**15,065**	32.1%	14,903	30.7%	162	15,800	33.1%	▲ 735
機械関連事業	**9,412**	20.1%	12,607	25.9%	▲ 3,195	9,500	19.9%	▲ 88
不動産事業	**10,188**	21.7%	8,982	18.5%	1,206	10,200	21.3%	▲ 12
その他	**2,502**	5.3%	2,375	4.9%	127	2,450	5.1%	52
新規事業	**124**	0.3%	52	0.1%	72	150	0.3%	▲ 26

セグメント別売上高構成比



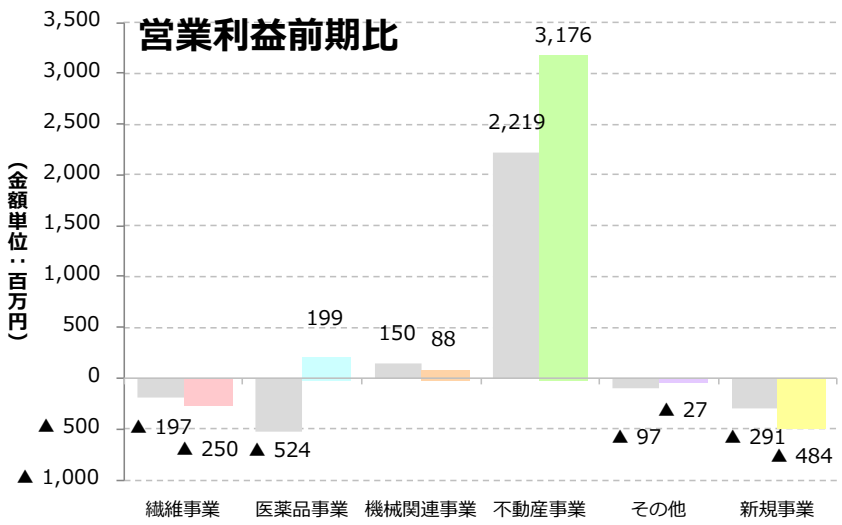
【機械関連】
・前期に大容量送水ポンプ車等の大口売上を計上したため

【不動産】
・前期開業のコクーン２(４月)、コクーン３(７月)の通年寄与
・前期賃貸開始の松本開発(11月)の通年寄与

連結損益計算書／セグメント別営業利益実績

（金額単位：百万円）

	2016実績	2015実績	前期増減	2016予想	予想との差異
	A	B	A-B	C	A-C
営業利益	**1,486**	▲ 190	1,676	1,400	86
繊維事業	**▲ 250**	▲ 197	▲ 53	▲ 100	▲ 150
医薬品事業	**199**	▲ 524	723	200	▲ 1
機械関連事業	**88**	150	▲ 62	100	▲ 12
不動産事業	**3,176**	2,219	957	3,000	176
その他	**▲ 27**	▲ 97	70	0	▲ 27
新規事業	**▲ 484**	▲ 291	▲ 193	▲ 500	16
調整額	**▲ 1,216**	▲ 1,450	234	▲ 1,300	84



【医薬品】
・不整脈治療剤「シベノール」の製造販売承認の承継もあり増益
・経皮吸収型・β１遮断剤「ビソノテープ」も着実に伸展

【不動産】
・増収に加え、前期は開業販促費を計上したため大きく増益

連結貸借対照表

不動産開発に伴う借入金を順調に返済

（金額単位：百万円）

	2016.12	2015.12	前期増減
	A	B	A-B
流動資産	**54,228**	55,290	▲ 1,062
固定資産	**90,430**	95,646	▲ 5,216
有形固定資産	**51,509**	53,401	▲ 1,892
無形固定資産	**1,350**	848	502
投資その他の資産	**37,570**	41,397	▲ 3,827
投資有価証券	**34,635**	37,490	▲ 2,855
資産合計	**144,659**	150,936	▲ 6,277
負債合計	**65,752**	71,632	▲ 5,880
借入金	**19,649**	23,345	▲ 3,696
預り敷金保証金	**9,810**	9,833	▲ 23
繰延税金負債	**10,294**	11,979	▲ 1,685
純資産合計	**78,906**	79,304	▲ 398
その他有価証券評価差額金	**16,349**	17,508	▲ 1,159
負債・純資産合計	**144,659**	150,936	▲ 6,277

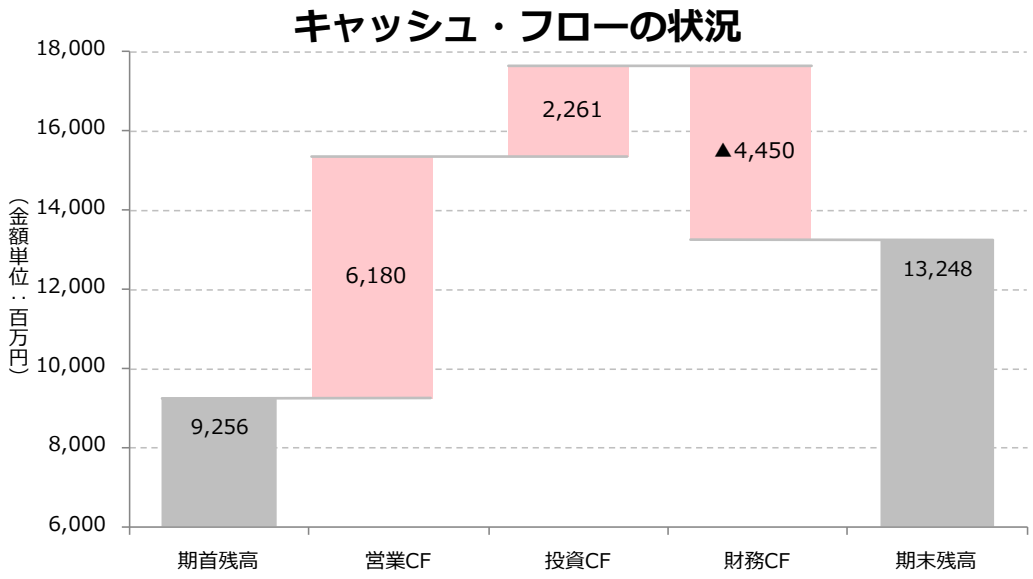
・不動産開発に伴う借入金の返済

・投資有価証券の一部売却に加え、時価評価差額

連結キャッシュフロー計算書

（金額単位：百万円）

		2015実績	2016実績
現金及び現金同等物の期首残高		5,758	**9,256**
	営業活動によるキャッシュ・フロー	3,007	**6,180**
	投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 6,767	**2,261**
	財務活動によるキャッシュ・フロー	7,258	**▲ 4,450**
現金及び現金同等物の増減額		3,498	**3,991**
現金及び現金同等物の期末残高		9,256	**13,248**



【営業ＣＦ】
・主に営業収益を確保できたことによる

【投資ＣＦ】
・有形固定資産の取得　▲16億円
・有価証券の償還による収入　＋20億円
・投資有価証券売却による収入　＋14億円

【財務ＣＦ】
・長期借入金の返済　▲31億円
・配当金の支払い　▲4億円

設備投資額・減価償却費・研究開発費

大型の社有地開発完了に伴い設備投資が減少

（金額単位：百万円）

	2016実績	2015実績	前期増減
	A	B	A-B
設備投資額	**3,135**	12,800	▲ 9,665
医薬品事業	**1,394**	950	444
不動産事業	**1,048**	10,660	▲ 9,612
その他のセグメント	**693**	1,190	▲ 497

【不動産】
・前期にコクーン２の大型設備投資あり

減価償却費	**4,113**	3,842	271
医薬品事業	**1,345**	1,458	▲ 113
不動産事業	**2,086**	1,884	202
その他のセグメント	**682**	500	182

【不動産】
・コクーン２の償却費が通年負担

研究開発費	**2,567**	3,138	▲ 571
医薬品事業	**2,285**	2,684	▲ 399
新規事業	**40**	196	▲ 156
その他のセグメント	**242**	258	▲ 16

【医薬品】
・適応追加に伴う臨床試験費用等が減少

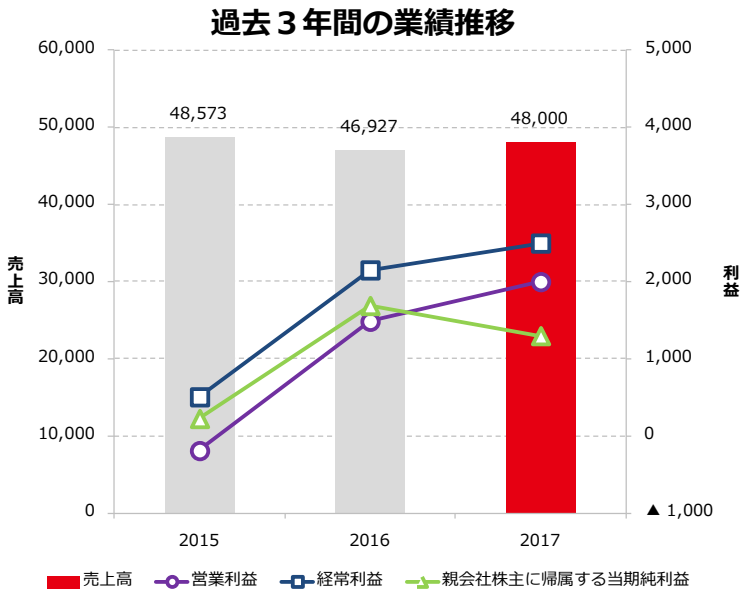
2. 2017年12月期　通期業績予想

連結損益計算書／通期予想

中期経営計画「カタクラ2021」の初年度は、機械関連の増収に加え、各セグメントで収益性の改善に取り組む

（金額単位：百万円）

	2017予想		2016実績		前期増減	2015実績	
	A	売上比	B	売上比	A-B	C	売上比
売上高	**48,000**	100.0%	46,927	100.0%	1,073	48,573	100.0%
営業利益	**2,000**	4.2%	1,486	3.2%	514	▲ 190	▲ 0.4%
経常利益	**2,500**	5.2%	2,152	4.6%	348	507	1.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	**1,300**	2.7%	1,691	3.6%	▲ 391	226	0.5%



【売上高】
・機械関連　＋９億円

【営業利益】
・新規　＋２億円
・繊維　＋２億円

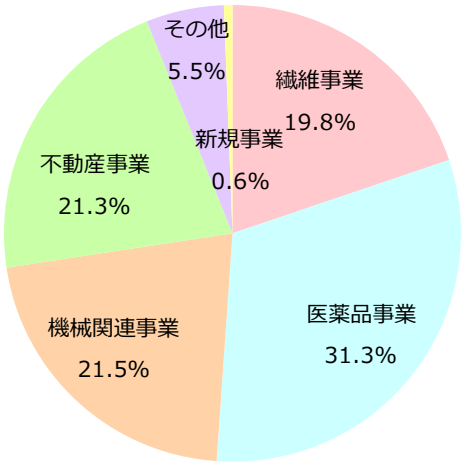
【親会社株主に帰属する当期純利益】
・ 前期に投資有価証券売却益があったため減益

連結損益計算書／セグメント別売上高予想

（金額単位：百万円）

	2017予想		2016実績		前期増減	2015実績	
	A	構成比	B	構成比	A-B	C	構成比
売上高	**48,000**	100.0%	46,927	100.0%	1,073	48,573	100.0%
繊維事業	**9,500**	19.8%	9,635	20.5%	▲ 135	9,652	19.9%
医薬品事業	**15,000**	31.3%	15,065	32.1%	▲ 65	14,903	30.6%
機械関連事業	**10,300**	21.5%	9,412	20.1%	888	12,607	26.0%
不動産事業	**10,200**	21.3%	10,188	21.7%	12	8,982	18.5%
その他	**2,700**	5.5%	2,502	5.3%	198	2,375	4.9%
新規事業	**300**	0.6%	124	0.3%	176	52	0.1%

セグメント別売上高構成比

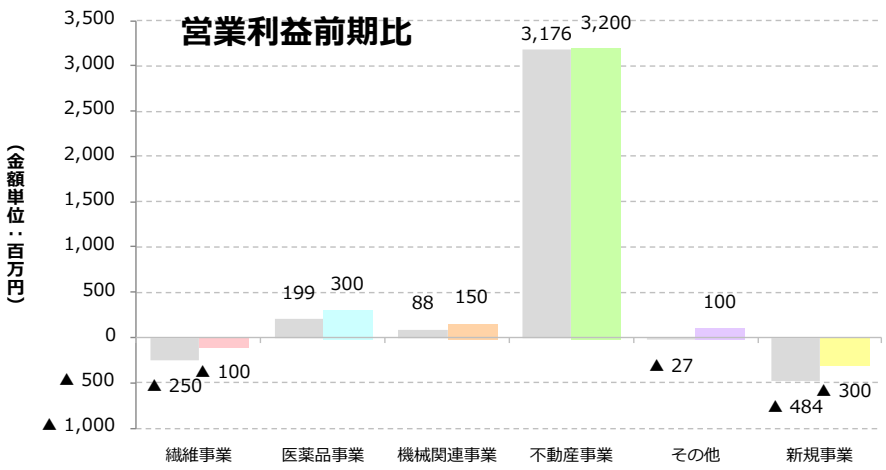


【機械関連】
・消防自動車関連で受注増見込み

連結損益計算書／セグメント別営業利益予想

（金額単位：百万円）

	2017予想	2016実績	前期増減	2015実績
	A	B	A-B	C
営業利益	**2,000**	1,486	514	▲ 190
繊維事業	**▲ 100**	▲ 250	150	▲ 197
医薬品事業	**300**	199	101	▲ 524
機械関連事業	**150**	88	62	150
不動産事業	**3,200**	3,176	24	2,219
その他	**100**	▲ 27	127	▲ 97
新規事業	**▲ 300**	▲ 484	184	▲ 291
調整額	**▲ 1,350**	▲ 1,216	▲ 134	▲ 1,450



【繊維】
・減収もコスト削減により好転

【新規事業】
・収益性の改善により好転

設備投資額・減価償却費・研究開発費予想

（金額単位：百万円）

		2017予想	2016実績	前期増減
		A	B	A-B
設備投資額		**2,170**	3,135	▲ 965
	不動産事業	**860**	1,048	▲ 188
	その他のセグメント	**1,310**	2,087	▲ 777
減価償却費		**3,520**	4,113	▲ 593
	医薬品事業	**1,100**	1,345	▲ 245
	不動産事業	**1,900**	2,086	▲ 186
	その他のセグメント	**520**	682	▲ 162
研究開発費		**2,600**	2,567	33
	医薬品事業	**2,210**	2,285	▲ 75
	その他のセグメント	**390**	282	108

3. 株主還元について

株主還元

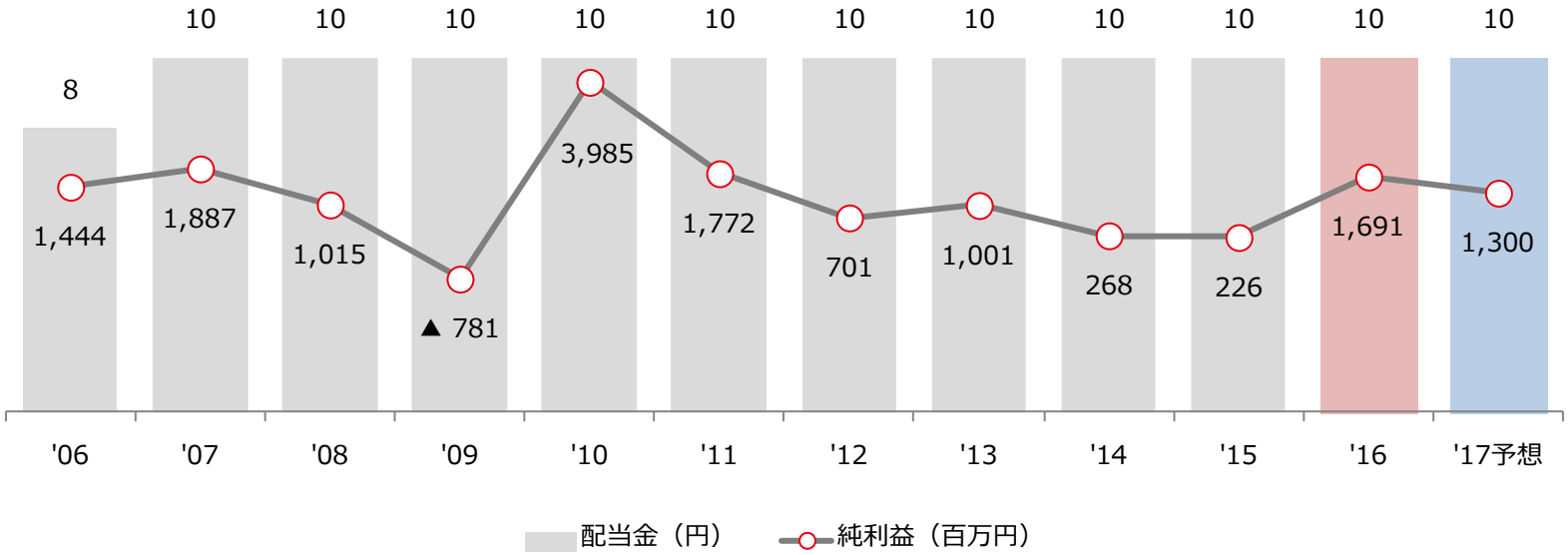
利益配分の方針

業績や今後の事業展開、内部留保の水準等を総合的に勘案し、株主へ継続的に安定した配当を実施することを基本としております。

１株あたり配当金	2016年12月期 実績
普通配当	10円00銭

１株あたり配当金	2017年12月期 予想
普通配当	10円00銭

配当金と純利益の推移



カタクラ

中期経営計画「カタクラ2021」

～愛される200年企業を目指して～

片倉工業株式会社
（コード：3001　東証第1部）
2017年2月23日

目次

1．前中期経営計画「カタクラ2016」の振り返り

2．経営理念・経営ビジョン

3．中期経営計画「カタクラ2021」

（1）基本戦略

（2）数値計画

（3）セグメント別戦略

（4）コーポレート機能の強化

1．前中期経営計画「カタクラ2016」の振り返り

前中期経営計画「カタクラ2016」の振り返り(1)

■ ビジネスプロジェクトの振り返り

- 不動産事業では、東京・埼玉・長野で３件の大型社有地開発プロジェクトを順調に展開
- 医薬品事業では、経皮吸収型β１遮断剤「ビソノテープ」を発売も、市場浸透が遅れ

2013年3月竣工	2013年9月発売	2015年開業	2017年秋開業予定
東京スクエアガーデン	ビソノテープ（新薬）	さいたま新都心駅前社有地第二期開発	松本社有地開発

COCOON CITY
Saitama-Shintoshin

イオンモール㈱へ土地賃貸
2017年秋開業予定

前中期経営計画「カタクラ2016」の振り返り(2)

■ 売上高・営業利益ともに数値目標は大幅に下回るも、コア収益事業の不動産事業は事業基盤をさらに拡充

＜数値計画＞

（金額単位：百万円）

	カタクラ2016 計画			2016 実績			増減	
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益
繊維事業	12,000	500	4.2%	**9,635**	**△ 250**	**–**	△ 2,365	△ 750
医薬品事業	22,000	2,400	10.9%	**15,065**	**199**	**1.3%**	△ 6,935	△ 2,201
機械関連事業	9,200	250	2.7%	**9,412**	**88**	**0.9%**	212	△ 162
不動産事業	10,000	2,500	25.0%	**10,188**	**3,176**	**31.2%**	188	676
その他	4,600	150	3.3%	**2,502**	**△ 27**	**–**	△ 2,098	△ 177
新規事業	3,200	150	4.7%	**124**	**△ 484**	**–**	△ 3,076	△ 634
調整額	–	△ 1,750	–	**–**	**△ 1,216**	**–**	–	534
合計	61,000	4,200	6.9%	**46,927**	**1,486**	**3.2%**	△ 14,073	△ 2,714

＜５年間の設備投資額等＞

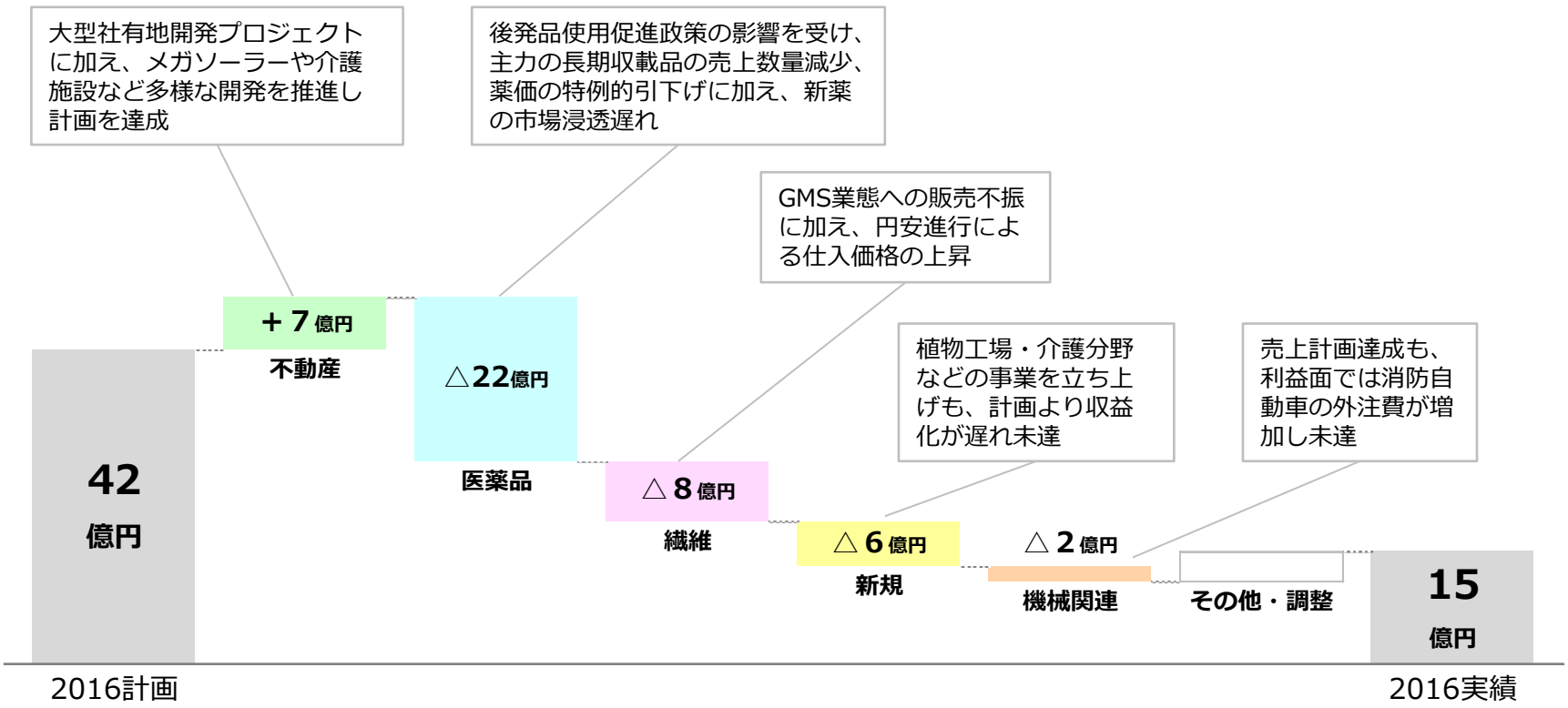
（金額単位：百万円）

	計画	2012-2016 実績	増減	使用率
設備投資額	29,500	**31,036**	1,536	105.2%
減価償却費	15,500	**16,449**	949	106.1%
研究開発費	17,500	**14,801**	△ 2,699	84.6%

前中期経営計画「カタクラ2016」の振り返り(3)

- 不動産事業で計画達成も、医薬品事業・繊維事業の不振もあり「成長事業への転換」が不十分
- 新規事業で植物工場・介護分野等で事業を立ち上げも、計画より収益化が遅れ未達

■ 計画との差異（営業利益）



2. 経営理念・経営ビジョン

経営理念・経営ビジョン(1)

経営理念

カタクラグループは、信義、誠実、親和協力を旨とし、
命と健康を守り健全で豊かな社会の実現に貢献する。

経営ビジョン

分散と融合を追求し、健康、安全・快適、環境との共生を
実現する企業集団を目指し、新しい「成長の芽」を創り出す。

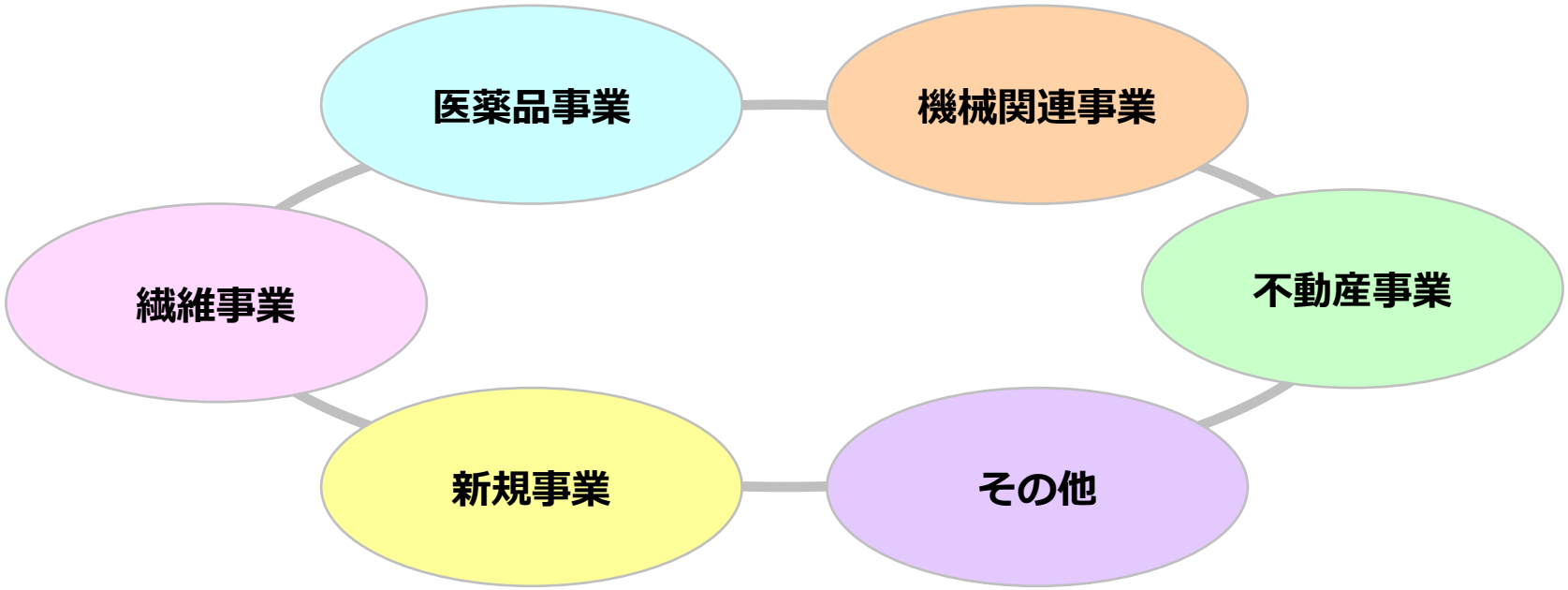
人々の
健康な暮らし
に貢献する事業
を創り出す。

人々の安全で
快適な暮らし
に貢献する事業
を創り出す。

環境
に貢献する事業
を創り出す。

経営理念・経営ビジョン(2)

製糸業を祖業とするカタクラグループは、
永きに亘る歴史の中で築き上げた有形無形の資産を強みに、
事業の拡大と多角化を推進。
分散（＝多角化経営）と融合（＝シナジーの強化）を追求し、
持続的な成長と拡大を目指す。

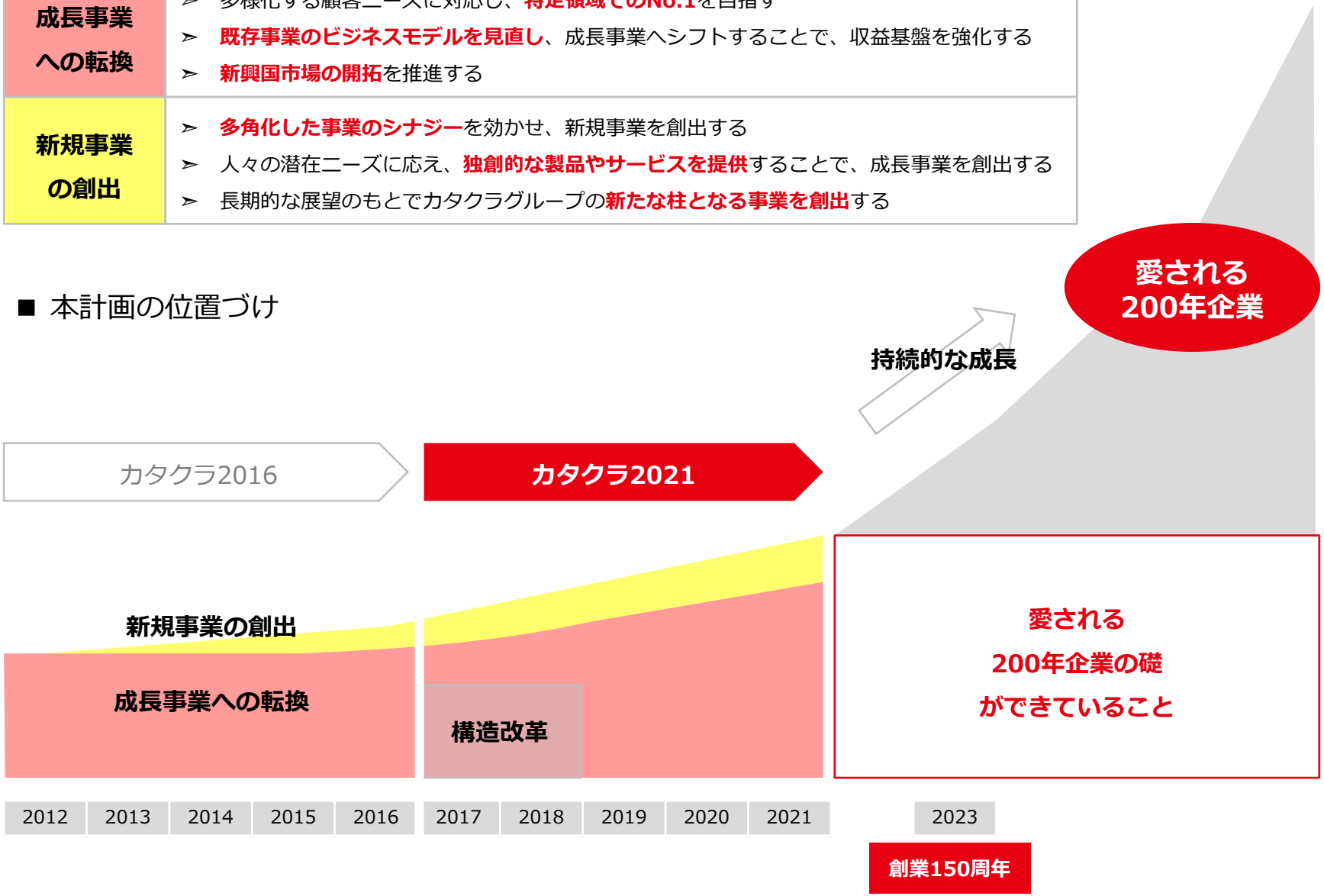


3. 中期経営計画「カタクラ2021」

(1) 基本戦略

成長事業への転換	➢ 多様化する顧客ニーズに対応し、**特定領域でのNo.1**を目指す ➢ **既存事業のビジネスモデルを見直し**、成長事業へシフトすることで、収益基盤を強化する ➢ **新興国市場の開拓**を推進する
新規事業の創出	➢ **多角化した事業のシナジー**を効かせ、新規事業を創出する ➢ 人々の潜在ニーズに応え、**独創的な製品やサービスを提供**することで、成長事業を創出する ➢ 長期的な展望のもとでカタクラグループの**新たな柱となる事業を創出**する

■ 本計画の位置づけ



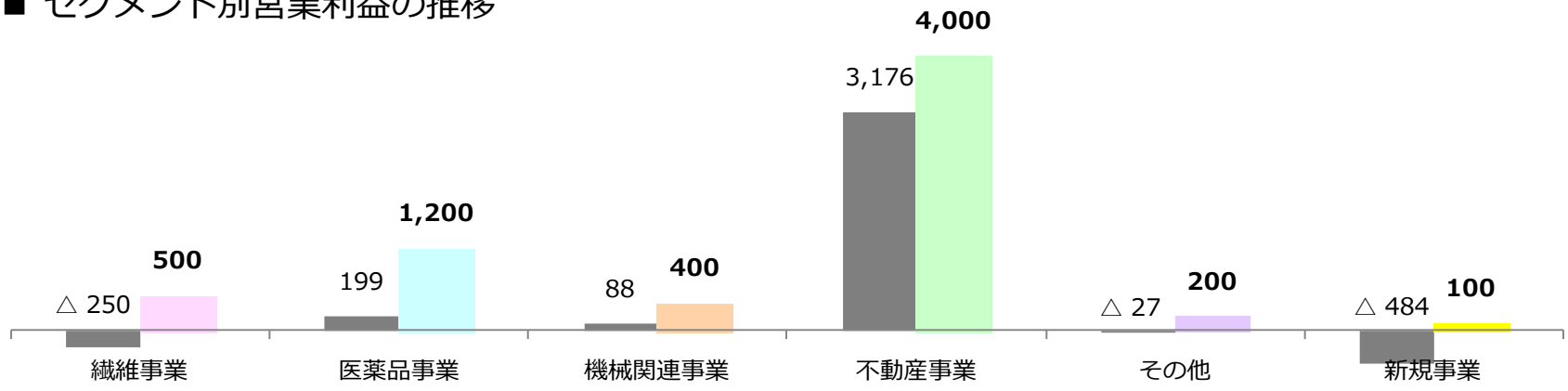
(2) 数値計画　セグメント別売上高・営業利益

カタクラ
中計カタクラ2021

（金額単位：百万円）

	2016実績			2021計画			増減	
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益
繊維事業	9,635	△ 250	–	**11,500**	**500**	**4.3%**	1,865	750
医薬品事業	15,065	199	1.3%	**15,200**	**1,200**	**7.9%**	135	1,001
機械関連事業	9,412	88	0.9%	**13,000**	**400**	**3.1%**	3,588	312
不動産事業	10,188	3,176	31.2%	**10,800**	**4,000**	**37.0%**	612	824
その他	2,502	△ 27	–	**4,100**	**200**	**4.9%**	1,598	227
新規事業	124	△ 484	–	**2,000**	**100**	**5.0%**	1,876	584
調整額	–	△ 1,216	–	**–**	**△ 1,200**	**–**	–	16
合計	46,927	1,486	3.2%	**56,600**	**5,200**	**9.2%**	9,673	3,714

■ セグメント別営業利益の推移



(2) 数値計画　新中期経営計画を支える事業基盤

①	不採算事業については、2018年度中を目途に、ビジネスの縮小・撤退も視野に入れながら構造改革を完了させる
②	継続的に成長している事業については、事業領域を拡大させ、更なる成長を目指す
③	重点戦略分野では、各事業セグメントの経営資源を持ち寄り、他社との業務提携やＭ＆Ａを積極的に活用しながら、グループの新たな柱となる事業の創出を目指す

(2) 数値計画　新中期経営計画を支える事業基盤

	分野	方針	対象となるビジネス
①	**構造改革事業**	不採算事業については、 2018年度中を目途に、 ビジネスの縮小・撤退も 視野に入れながら 構造改革を完了させる	・繊維事業の「実用衣料」 ・医薬品事業の「循環器領域における新薬開発」等
②	**継続的に 成長している事業**	事業領域を拡大させ、 更なる成長を目指す	・不動産事業の「さいたま新都心まちづくり」「新規取得開発」 ・機械関連事業の「消防・防災」 ・繊維事業の「機能性繊維」等

(2) 数値計画　新中期経営計画を支える事業基盤

	分野	方針
③	重点戦略分野	各事業セグメントの経営資源を持ち寄り、他社との業務提携やＭ＆Ａを積極的に活用しながら、グループの新たな柱となる事業の創出を目指す

	繊維	医薬品	機械関連	不動産	その他	新規
介護福祉・健康分野	介護福祉製品のラインナップ拡充、デイサービス以外の介護サービス追加					
アグリ・環境分野	植物工場の製品ラインナップ拡充					
防災・安全分野	消防から防災への周辺領域拡張					
高付加価値素材分野	機能性繊維の高機能化と用途開発					
さいたま新都心エリアでの新事業分野	強みのあるさいたま新都心エリアでの事業展開					

(2) 数値計画　設備投資額・減価償却費・研究開発費

カタクラ
中計カタクラ2021

（金額単位：百万円）

		2012～2016年 実績	2017～2021年 計画
	不動産事業	22,032	**18,000**
	その他のセグメント	9,004	**7,000**
設備投資額		31,036	**25,000**

<前中期経営計画>
・不動産事業で大型プロジェクト(190億円)を中心に投資
<新中期経営計画>
・不動産事業で新規取得開発(100億円)

	不動産事業	7,044	**8,500**
	医薬品事業	7,163	**4,500**
	その他のセグメント	2,242	**3,000**
減価償却費		16,449	**16,000**

	医薬品事業	12,331	**10,000**
	その他のセグメント	2,470	**2,000**
研究開発費		14,801	**12,000**

<前中期経営計画>
・医薬品事業で新薬ビソノテープを発売
<新中期経営計画>
・医薬品事業で研究開発体制の効率化

(3) セグメント別戦略　不動産事業

カタクラ
中計カタクラ2021

■ 不動産事業の展開

事業環境変遷にあわせ製糸工場を商業施設等に転換

↓

社有未利用地の有効活用から不動産デベロッパーへの転換	**■さいたま新都心駅前社有地第一期開発** ・従来はGMSを核テナントとした一括賃貸での開発が中心 ・現「コクーン１」を2004年に開業（投資額約80億円）

↓

デベロッパーとしての実績・ノウハウ獲得、人材育成 **大型PJ投資 190億円** （2012～2016）	**■大型社有地開発を中心として推進** ・京橋本社跡地開発：「東京スクエアガーデン」開業 ・さいたま新都心駅前社有地第二期開発：「コクーン２」「コクーン３」を2015年に開業 ・松本社有地開発：イオンモール㈱への土地賃貸開始 **■中小規模社有地開発** ・メガソーラーや介護施設など多様な開発を展開

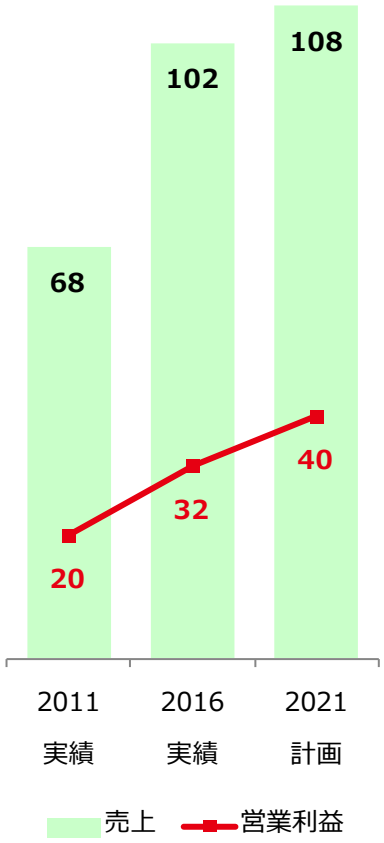
↓

■ 中長期目標

社有地開発をベースに新規取得開発の推進による事業領域の拡大

■ 定量目標

（単位：億円）



(3) セグメント別戦略　不動産事業

＜成長事業＞　さいたま新都心まちづくり

ヒトやまちのニーズの変化にあわせ段階的に開発を行うことで持続的成長を実現

■ 第二期開発により地域No. 1 規模の商業施設へ

・営業面積：約76,000㎡（コクーン１：約23,000㎡、コクーン２：約35,000㎡、コクーン３：約18,000㎡）
・テナント売上：365億円　※一部非公表テナント除く（2015年９月～2016年８月、当初計画を達成）
・延来館客数：3,060万人（2015年９月～2016年８月）

■ 具体的な戦略

第三期開発への着手

・充実した商業機能に加え「働く・楽しむ・暮らす」等の多機能を導入・融合させ、新たなコミュニティを創造
・さいたま新都心社有地エリア全体を対象に開発計画を策定し、中期経営計画期間中に公表する

まちづくり視点でのビジネスの拡充

・エリアマネジメントへ取り組み、社有地周辺エリアと連携し、エリアの価値向上・ブランドカアップに貢献
・その他事業の清掃事業、小売事業との連携

新規取得開発の実施

・さいたま新都心社有地周辺での新規物件取得

(3) セグメント別戦略　不動産事業

カタクラ
中計カタクラ2021

■ さいたま新都心駅前社有地

社有地全体：147,000㎡　（公道等除く）

a. コクーン1 b. コクーン2 c. コクーン3 d. パークサイドビル e. レクサスさいたま新都心 f. フォルクスワーゲンさいたま新都心 g. ガーデンヒルズ迎賓館
h. さいたま新都心コクーンシティ住宅展示場 i. オフィスビル j. ニチイホーム アイリスガーデン k. デイリーヤマザキ

(3) セグメント別戦略　不動産事業

＜成長事業＞　新規取得開発の実施

■社有地外の不動産取得による新規開発

・首都圏での商業系開発（SC等）を中心に、業務系開発（オフィス等）を視野に入れ開発

新規取得投資：100億円（2017～2021年）

既存施設の再構築

■福島県いわき市（約29,100㎡）

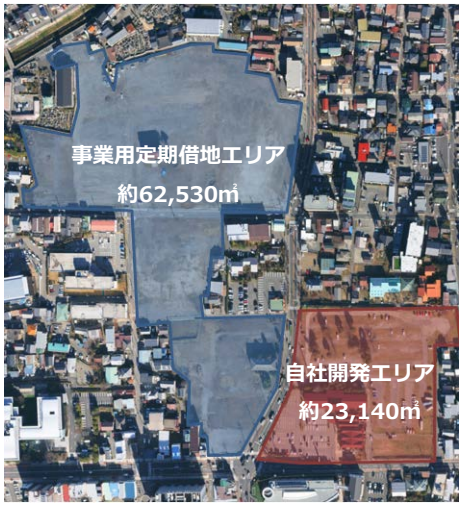
・現況：イオンいわき店賃貸・自社ホームセンター

・地域のニーズに応えたリニューアルを実施

社有地開発

■長野県松本市（約23,140㎡）

・土地賃貸しているイオンモール松本（2017年秋開業予定）と相乗効果を発揮し得る計画を検討中



■福島県福島市（約8,700㎡）

・土地交換により現福島赤十字病院敷地を取得

・同病院の移転・開院（2019年予定）後開発

■東京都三鷹市（約2,670㎡）

・㈱ベネッセスタイルケアへ建物賃貸（介護施設）

・2017年６月賃貸開始予定

(3) セグメント別戦略　医薬品事業

■ 現状の課題認識

外部環境	・ 薬価改定により、長期収載品の市場縮小傾向 ・ 循環器領域（虚血・不整脈・心不全）の市場縮小傾向 ・ 後発品使用促進政策強化により、後発品の市場拡大

内部環境	・ 戦略製品である経皮吸収型β１遮断剤「ビソノテープ」の市場浸透遅れ ・ 売上高に占める長期収載品比率が高く、薬価の特例的引下げの影響が大きい ・ 付加価値後発品開発が必要

「循環器領域に特化したスペシャリティファーマ」からの転換が必要

＜構造改革＞

■ 中長期目標

循環器領域にその周辺領域を新たに加え、付加価値後発品を中心に展開することによる当該領域でのプレゼンスの向上

(3) セグメント別戦略　医薬品事業

■ 具体的な戦略

周辺領域である腎・透析領域等への参入

・主力である循環器領域の周辺領域へ参入

後発品事業への注力

・自社開発の強化と、他社との共同開発の活用により、付加価値後発品を継続的に発売

ライセンス展開による新薬の研究開発効率化

・「ビソノテープ」の適応追加と製剤改良
・自社完結型から、インライセンス・アウトライセンス(*1)を活用
・研究開発費の削減（前中計123億円→新中計100億円）

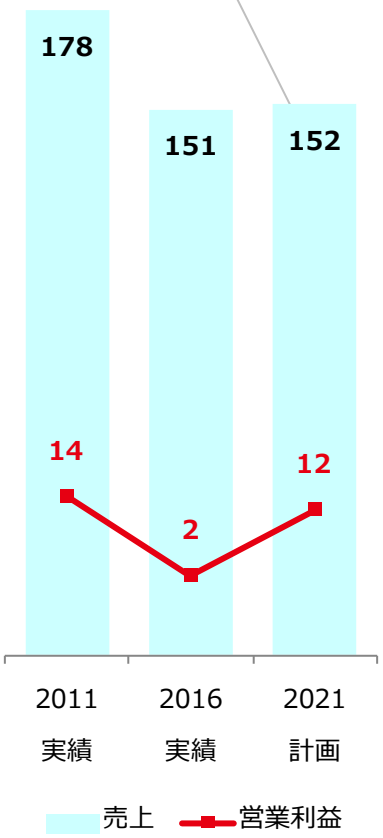
承継及びコ・プロモーション（販売提携）の強化

・循環器、腎・透析領域等でエッセンシャルドラッグ(*2)を他社から承継及び販売提携の強化

■ 定量目標

（単位：億円）

・後発品発売により売上高を維持
・コスト削減により利益改善を見込む



(*1) インライセンス：他社ライセンスの導入、アウトライセンス：自社ライセンスの導出
(*2) 病気の予防や診断・治療に不可欠で、なければ人の健康維持や医療に重大な支障をきたす薬剤

(3) セグメント別戦略　繊維事業

＜構造改革事業＞ 実用衣料

■ 現状の課題認識

・ 量販向けベーシックインナーの不振

・ 円安により海外生産コストが上昇

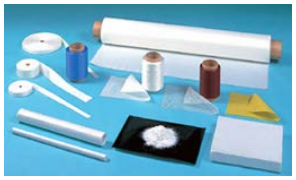
■ 中長期目標

健康と美を追求する高付加価値インナーメーカーへの転換

■ 具体的な戦略

機能再構築による競争力の強化	天然素材を基軸にした新NBの展開
・３社の商品企画・生産・販売機能の統合	・「Katakura silk」を始めとする婦人インナー等のラインナップ拡充

＜成長事業＞ 機能性繊維



ニチビアルフ®

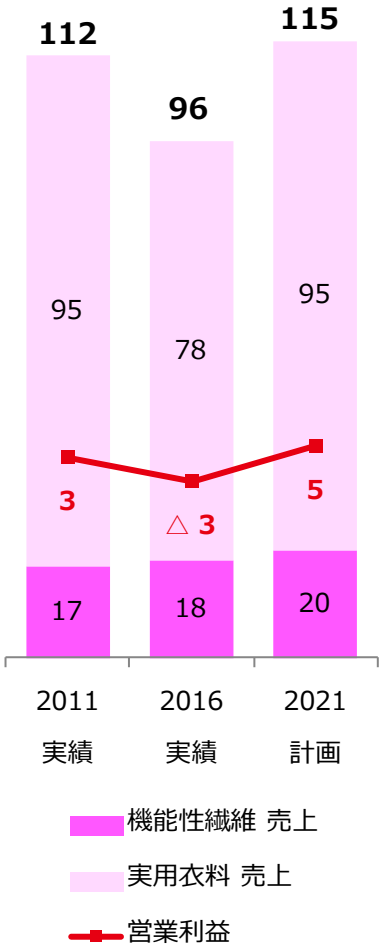
■ 中長期目標

産業素材メーカーとしての地位を確立

■ 具体的な戦略

新たな高機能素材の開発と耐熱性繊維の用途開発

■ 定量目標　（単位：億円）



(3) セグメント別戦略　機械関連事業

■ 中長期目標

- **消防自動車等の既存領域に加え、新たに防災事業を確立**
- **ロボット技術・自動化技術を駆使した新製品開発**
- **海外での販売拡大**

■ 事業環境認識

・地方自治体の予算減による消防車需要の減少
・石油コンビナートの大容量送水車ニーズの高まり
・アジア諸国の市場拡大

■ 具体的な戦略

消防自動車の性能向上と周辺分野の拡大

・はしご車を積極展開
・他社との業務提携やM&Aにより周辺分野を拡大

Vowcanシリーズの拡充と防災分野への参入

艤装技術を基にした特装車両開発

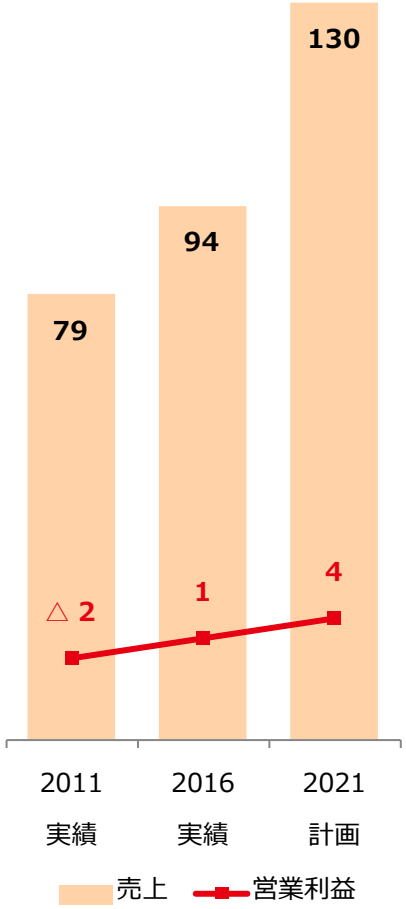
アジアを中心とした海外マーケットへの進出

はしご車

大容量水中ポンプシステム
Vowcan（ボーキャン）

■ 定量目標

（単位：億円）



(3) セグメント別戦略　新規事業

■ 事業規模拡大・収益力強化を図るとともに、更なる新規事業の創出にも取り組み

事業化案件	具体的な戦略
デイサービス 都内２施設 オストメイト 対応型便座販売	介護サービスの業容拡大と介護福祉機器の開発・拡販
「絹蜜」化粧品 洗顔石鹸 クレンジングオイル 化粧水 オールインワンジェル	美容分野の商品ラインナップの拡充と健康食品分野への参入
低カリウムレタス はなびらたけ「花華(はなか)」	植物工場による高付加価値野菜の開発・拡販と量産体制の構築

新たな事業の柱を構築

(4) コーポレート機能の強化

グループガバナンス機能の強化とグループ運営の効率化

グループ内の人材交流によるグループ成長に資する人材の育成強化

■ ESGへの取り組み

Environment 環境への取り組み

■ 不動産事業において環境への取り組みを推進

・２施設が「SEGES(シージェス)2016都市のオアシス」(公益財団法人都市緑化機構主催) に認定

コクーンシティ

京橋の丘（東京スクエアガーデン）

Social 社会への取り組み

■ 社会貢献型製品の拡充に取り組み

・オストメイト対応便座が病院・公園・商業施設等のパブリック空間へ導入が進む

■ 商業施設での地域貢献活動推進

・清掃活動プロジェクトへ積極的な参画

Governance ガバナンス強化

■ グループガバナンス強化とグループ運営の効率化に取り組み

・コーポレートガバナンスコードへの継続的な取り組みによるガバナンスの向上

参考資料

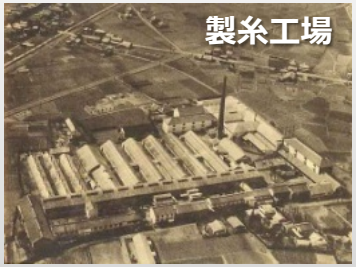
《参考資料①》カタクラグループの多角化起源

創業　１８７３年（明治６年）
設立　１９２０年（大正９年）

カイト
垣外製糸場

生糸

富岡製糸場の保有
１９３９～２００５年
（６６年間）



生糸製造の伝統を受け継ぐ

繊維事業

衣料品事業部
肌着、靴下の製造・販売

オグランジャパン㈱
カジュアルインナーの製造・販売

カフラス㈱
補整下着の製造・販売

㈱ニチビ
水溶性繊維、耐熱性繊維の製造・販売

優良蚕品種研究を活かす

医薬品事業

トーアエイヨー㈱
医療用医薬品の製造・販売

その他

生物科学研究所
訪花昆虫の販売等

自社開発の製造ノウハウを活かす

機械関連事業

機械電子事業部
自動車部品の製造・販売
石油製品等の輸入販売

日本機械工業㈱
消防自動車の製造・販売

片倉機器工業㈱
農業用機械の製造・販売

跡地を有効利用する

不動産事業

商業施設事業部
ショッピングセンターの運営
不動産賃貸

不動産開発部
社有地の開発・活用

その他

小売事業部
小売業の運営

㈱片倉キャロンサービス
ビル管理サービス

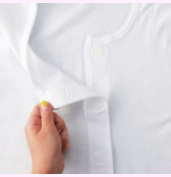
《参考資料②》カタクラグループの事業構成

カタクラ
中計カタクラ2021

繊維事業

シルクインナー

介護肌着



衣料品事業部

ライセンス製品

オグランジャパン㈱

補整下着

カフラス㈱

アルミナ長繊維
（耐熱性繊維）

㈱ニチビ

医薬品事業

トーアエイヨー㈱

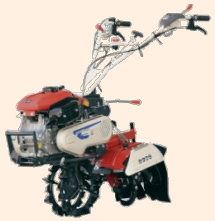
機械関連事業

三岐弁

振動ハブリング
洗浄器

機械電子事業部

二輪管理機



片倉機器工業㈱

消防自動車

はしご車

日本機械工業㈱

不動産事業

東京スクエアガーデン

商業施設事業部

コクーンシティ

不動産開発部

その他

ニューライフ
カタクラ

マルベリー
ガーデン

小売事業部

交配専用みつばち商品

生物科学研究所

ビルの清掃等

㈱片倉キャロンサービス

《参考資料③》【不動産事業】コクーンシティ概要

カタクラ
中計カタクラ2021

〔さいたま新都心駅前社有地開発〕　直営のＳＣに加え多様な機能を備えた「コクーンシティ」

cocoon 1

営業面積	約23,000㎡
階数	地上２階
テナント売上想定	約150億円
テナント数	約100店
設備投資額	約80億円

cocoon 2

営業面積	約35,000㎡
階数	地上３階
テナント売上想定	約200億円
テナント数	164店（開業時）
設備投資額	約155億円

cocoon 3

営業面積	約18,000㎡
階数	地上３階・地下１階
テナント売上想定	非公表
テナント	・ヨドバシカメラ ・マルベリーガーデン(直営) 他

■その他の主要な賃貸施設

さいたま新都心
コクーンシティ住宅展示場

LEXUS

Volkswagen. Das Auto.

One Heart Wedding　ガーデンヒルズ迎賓館

Daily YAMAZAKI

介護付有料老人ホーム
ニチイホーム
サービス付高齢者用住宅
アイリスガーデン

《参考資料④》【機械関連事業】Vowcan概要

大容量水中ポンプシステム 「Ｖｏｗｃａｎ（ボーキャン）」 の取り組み

■開発の経緯と展開

・機械関連事業の工業用バルブや消防自動車等の製造で培った技術を活かし、大規模災害を想定した製品の研究に取り組み

・海や河川など無限水利からの取水や送水、また洪水による浸水時の排水ができる運搬式の油圧式水中ポンプシステムを開発

・国内外の展示会に出展

①「防災産業展in仙台」（宮城県　仙台市） 2015/ 3

②「Defense&Security2015」（タイ　バンコク） 2015/11

③「IFCAA2016大阪国際消防防災展」（大阪府）2016/6

・国内、海外への積極的なプロモーションを展開

■使用例

・水没箇所からの大量排水

・渇水時における生活用水の確保

・山間部など近くに水源が無い場所において、海や河川からの遠距離送水

・ゲリラ豪雨や長雨などにより発生した洪水の排水

・河川の工事において、水の移動が必要な場合の送水

放水テストの模様

<ご案内>

本資料中の業績見通し等についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

その実現・達成を保証または約束するものではありません。また今後、予告なしに変更されることがあります。

本資料に含まれる情報の掲載にあたりましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りに関しまして、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。

<お問い合わせ先>

片倉工業株式会社

住所：〒104-8312　東京都中央区明石町６番４号

企画部広報・ＩＲ室　室長 三上雅生 ／ 菊地信行

Tel ：03-6832-0223

Fax：03-6832-0282

世界遺産登録「富岡製糸場」

特集WEBページ「片倉工業と富岡製糸場が歩んだ歴史」

http://www.katakura.co.jp/tomioka.htm